

「看護業務効率化先進事例収集・周知事業の認知度等に関する調査」結果について

日本看護協会では、看護職がより専門性を発揮できる働き方を推進し、看護サービスの質の向上を図るため、2019年度より厚生労働省の補助金事業「看護業務効率化先進事例収集・周知事業」を実施しています。本事業では、看護業務の効率化に資する医療機関等の取り組みを選考・表彰・周知する「看護業務効率化先進事例アワード」、本アワードで表彰された事例を試行する施設を支援する事業等を行っています。（詳細は、看護業務効率化先進事例収集・周知事業ポータルサイトをご参照ください。 <https://www.kango-award.jp/case/index.html>）

■調査概要

目的：「看護業務効率化先進事例収集・周知事業」の認知度および医療機関等の業務効率化への関心等を把握する。

対象：①病院・訪問看護ステーションの看護管理代表者

全国の病院約8,200か所（全数）

訪問看護ステーション約8,000か所（全施設13,000か所より無作為抽出）

※はがきによって周知・調査協力の依頼を行った。

②認定看護管理者：約4,500人（本会認定システムのメール登録者）

③診療所、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、社会福祉施設等の看護管理代表者

※本会HPや、都道府県看護協会、関係団体等を通じて周知・調査協力の依頼を行った。

調査期間：2022年6月1日（水）～2022年7月31日（日）

調査方法：インターネット調査

回収状況：総回答数 2,339件

■調査結果

1. 回答者の属性

○回答者の所属施設は「病院」（54.4%）と「訪問看護ステーション」（43.7%）、全体の98%以上であった。【表1】

○職位は「管理職」が（87.3%）と最も多く、「中間管理職」（10.1%）、「スタッフ」（2.4%）であった。【表2】

【表1】回答者の所属施設

	件数	割合
病院	1,274	54.5%
診療所	6	0.3%
介護老人保健施設	5	0.2%
訪問看護ステーション	1,022	43.7%
社会福祉施設	9	0.4%
介護老人福祉施設	4	0.2%
その他	13	0.6%
無回答	6	0.3%
計	2,339	100.0%

【表2】回答者の職位

	件数	割合
管理職	2,042	87.3%
中間管理職	237	10.1%
スタッフ	56	2.4%
無回答	4	0.2%
計	2,339	100.0%

2. 本事業の認知度について

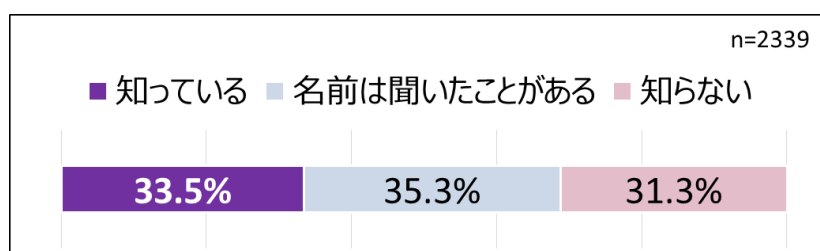
厚生労働省補助金事業「令和4年度看護業務効率化先進事例収集・周知事業」（「看護業務の効率化先進事例アワード」や「看護業務の効率化試行支援事業」）の認知状況を尋ねた。

○本事業を「知っている」（33.5%）、「名前は聞いたことがある」（35.3%）、「知らない」（31.3%）がほぼ同率であった。【図1-1】

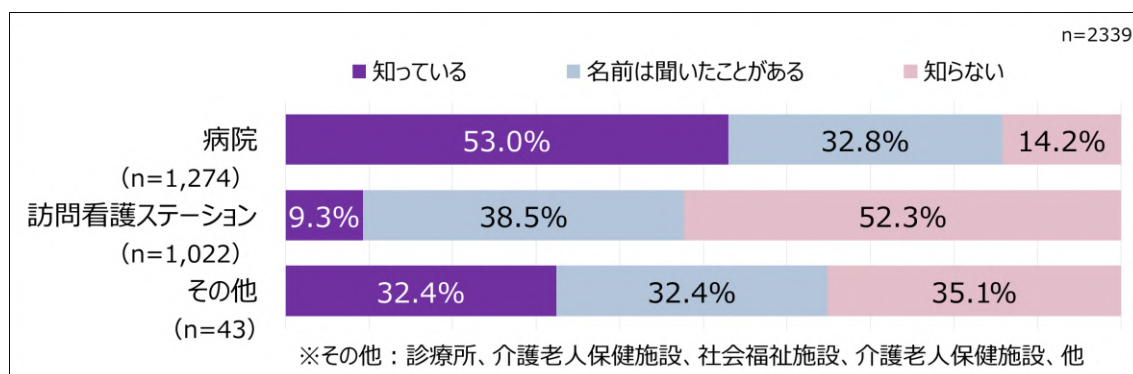
○施設別では「知っている」と回答したのは「病院」（53%）、「訪問看護ステーション」（9.3%）であり、「知らない」（52.3%）であった。【図1-2】

○職位別では「知っている」と回答したのは「管理職」（36.5%）、「中間管理職」（13.9%）、「スタッフ」（8.9%）であった。【図1-3】

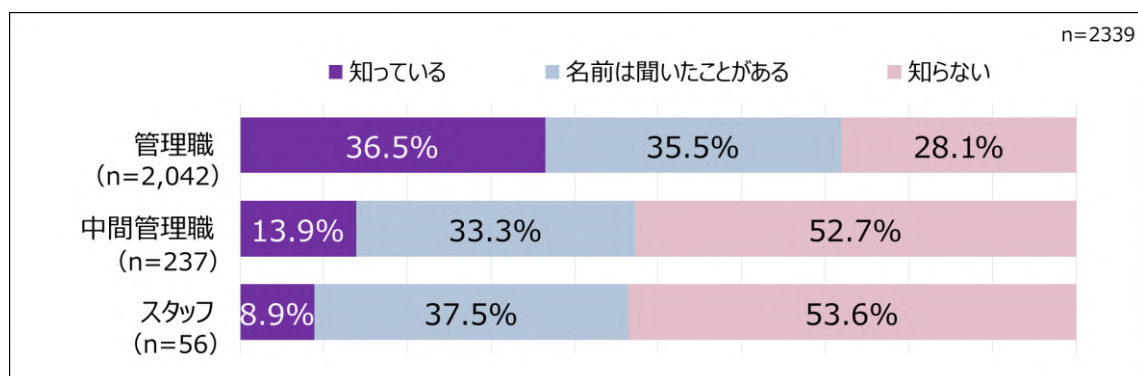
【図1-1】 事業認知度（全体）



【図1-2】 事業認知度（所属施設別）



【図1-3】 事業認知度（職位別）



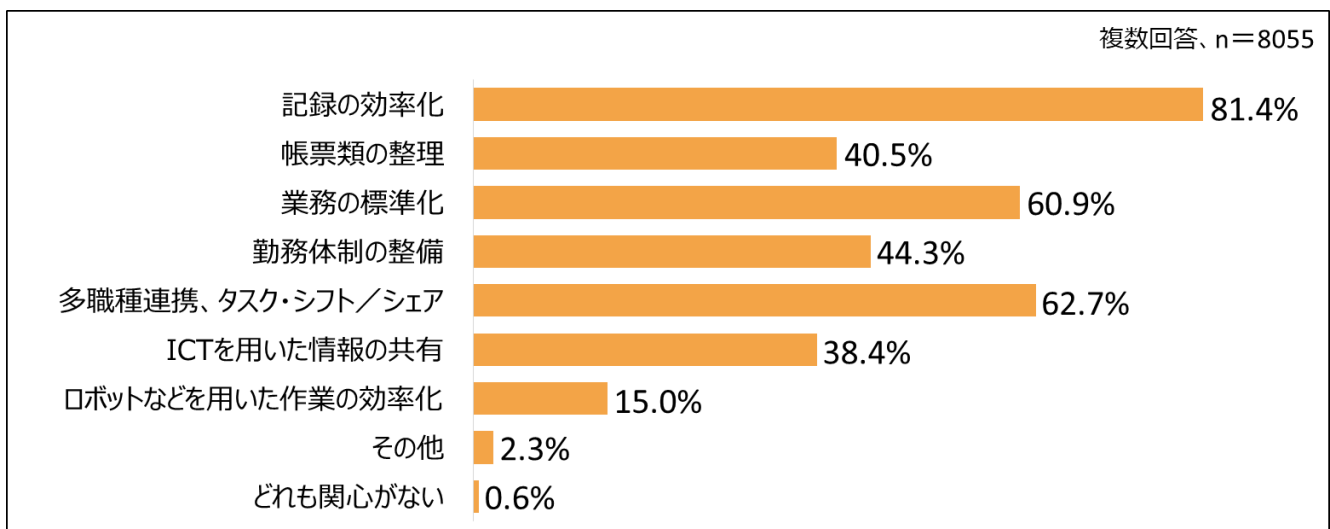
3. 看護業務効率化への関心について

自施設が今後、看護業務効率化をすすめるにあたり、関心のある取組について尋ねた。

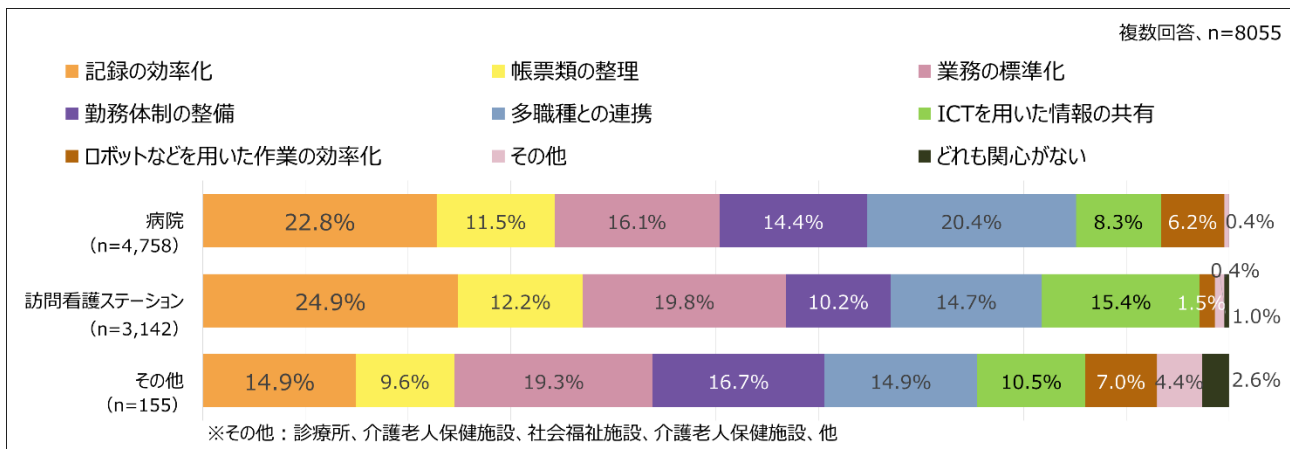
○回答者全体では「記録の効率化」(81.4%)への関心が最も高く、次いで「多職種との連携、タスク・シフト/シェア」(62.7%)、「業務の標準化」(60.9%)、「勤務体制の整備」(44.3%)、「帳票類の整理」(40.5%)、「ICTを用いた情報の共有」(38.4%)であった。【図2-1】

○施設別にみると「病院」では、「記録の効率化」、「多職種との連携」がやや多く、「訪問看護ステーション」では、「記録の効率化」「ICTを用いた状況の共有」がやや多い傾向がみられた。【図2-2】

【図2-1】看護業務効率化をすすめるにあたり、関心のある取組（全体）



【図2-2】看護業務効率化をすすめるにあたり、関心のある取組（所属施設別）



4. 「看護業務効率化先進事例アワード」受賞取組の認知度

「看護業務の効率化先進事例アワード 2019・2020・2021」において最優秀賞および優秀賞を受賞した取組の中から14事例を挙げ、「知っている」取組事例について尋ねた。

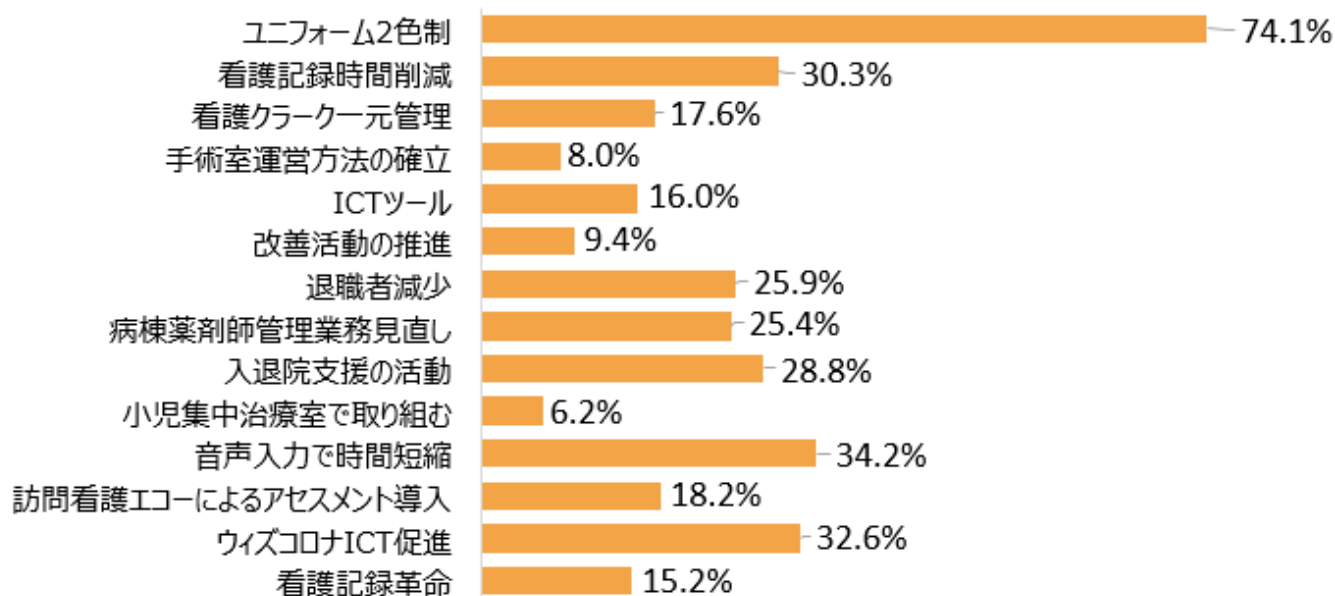
参照：＜「看護業務の効率化先進事例アワード 2019・2020・2021」最優秀賞および優秀賞事例＞

○回答者全体では「ユニフォーム2色制」と「ポリバレンタナス育成」による持続可能な残業削減への取組（74.1%）が最も高く、次いで「音声入力で時間を短縮 残業を減らそう」（34.2%）、「ウィズコロナでICT促進！～患者と家族をつなぐオンライン面会の取組～」、「看護記録に要する時間削減の効率化への取組 - 記録内容の標準化とリアルタイム記録に焦点を当てて -」（30.3%）であった。【図3-1】

○施設別においても「ユニフォーム2色制」の認知度が圧倒的に高かったが、「診療所」「介護老人福祉施設」では「入退院における重複する帳票記録の一元化と多職種連携」が「ユニフォーム2色制」と同率で認知度が高い傾向がみられた。【表3、図3-2】

【図3-1】「看護業務効率化先進事例アワード」受賞取組の認知度（全体）

複数回答、n=5484



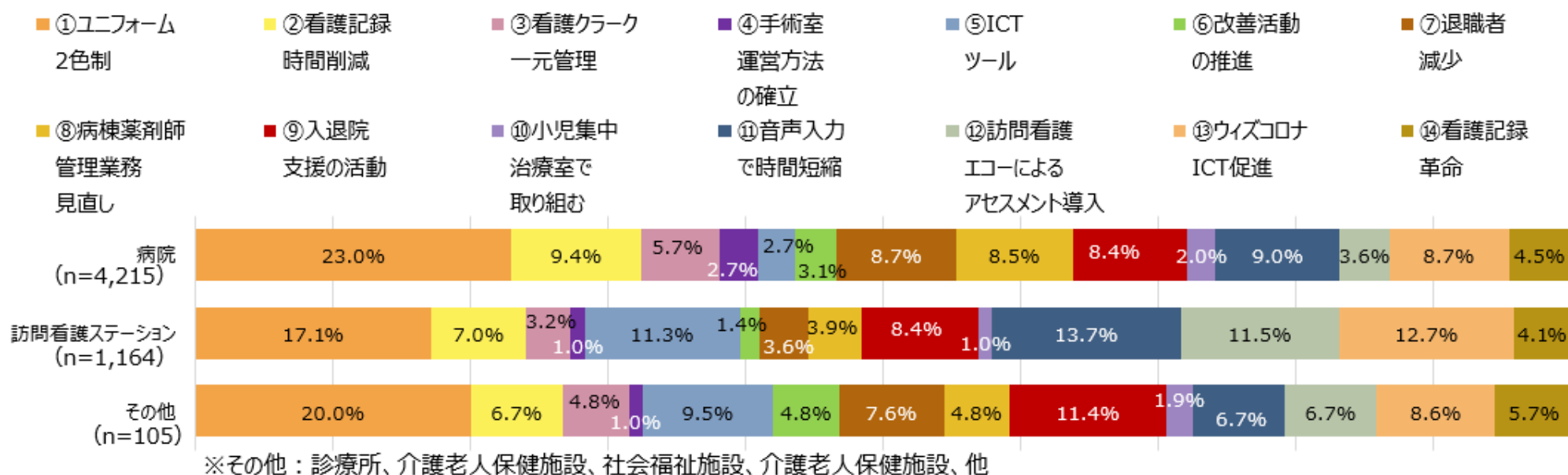
【表3】「看護業務効率化先進事例アワード」受賞取組の認知度（所属施設別）

	回答数	① ② 色ユ 制ニ フォ ーム	② 時 間 削 減 記 録	③ 一 元 看 護 ク ラ ー ク	④ の 確 立 手 術 室 運 営 方 法	⑤ I C T ツ ー ル	⑥ 改 善 活 動 の 推 進	⑦ 退 職 者 減 少	⑧ 見 直 し 病 棟 薬 剤 師 管 理 業 務	⑨ 入 退 院 支 援 の 活 動	⑩ 取 り 組 む 小 児 集 中 治 療 室 で	⑪ 音 声 入 力 で 時 間 短 縮	⑫ ア セ ス メ ン ト 導 入 訪 問 看 護 エ コ ー に よ る	⑬ I C T 促 進 ウ イ ズ コ ロ ナ	⑭ 看 護 記 録 革 命
病院	4,215 (100.0)	968 (23.0)	398 (9.4)	241 (5.7)	115 (2.7)	114 (2.7)	130 (3.1)	365 (8.7)	358 (8.5)	352 (8.4)	86 (2.0)	381 (9.0)	151 (3.6)	366 (8.7)	190 (4.5)
訪問看護ステーション	1,164 (100.0)	199 (17.1)	81 (7.0)	37 (3.2)	12 (1.0)	132 (11.3)	16 (1.4)	42 (3.6)	45 (3.9)	98 (8.4)	12 (1.0)	160 (13.7)	134 (11.5)	148 (12.7)	48 (4.1)
その他	105 (100.0)	21 (20.0)	7 (6.7)	5 (4.8)	1 (1.0)	10 (9.5)	5 (4.8)	8 (7.6)	5 (4.8)	12 (11.4)	2 (1.9)	7 (6.7)	7 (6.7)	9 (8.6)	6 (5.7)
計	5,498 (100.0)	1,191 (21.7)	488 (8.9)	283 (5.1)	128 (2.3)	258 (4.7)	151 (2.7)	417 (7.6)	408 (7.4)	463 (8.4)	100 (1.8)	548 (10.0)	294 (5.3)	524 (9.5)	245 (4.5)

※その他：診療所、介護老人保健施設、社会福祉施設、介護老人保健施設、他

【図3-2】「看護業務効率化先進事例アワード」受賞取組の認知度（所属施設別）

複数回答、n=5484



5. 「看護業務効率化先進事例アワード」受賞取組で実施してみたい取組

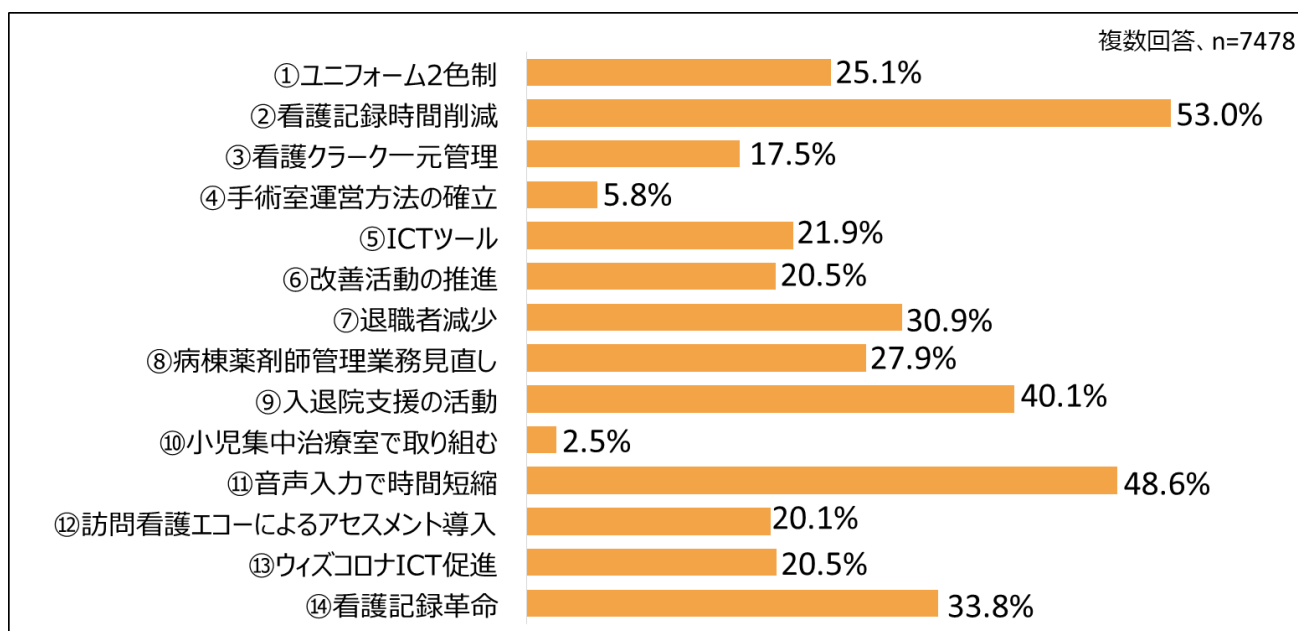
「看護業務の効率化先進事例アワード 2019・2020・2021」最優秀賞および優秀賞を受賞した取組 14 事例のうち、自施設で参考にしたい取り組みについて尋ねた。

参照：＜「看護業務の効率化先進事例アワード 2019・2020・2021」最優秀賞および優秀賞事例＞

○回答者全体では「看護記録に要する時間削減の効率化への取組 - 記録内容の標準化とリアルタイム記録に焦点を当てて -」（53%）、「音声入力で時間を短縮 残業を減らそう」（48.6%）が高く、次いで「入退院における重複する帳票記録類の一元化と多職種の連携」（40.1%）、「新型コロナウイルス感染症クラスター下での看護記録革命！～スマホ活用で問題解決～」（33.8%）、「看護補助者の退職者減少を目指した「看護補助者の拡大チーム」の編成と「看護補助者ラダーの導入」（30.9%）の順に高い。【図 4-1】

○施設別にみると、「病院」と「訪問看護ステーション」では「看護記録に要する時間削減の効率化への取組 - 記録内容の標準化とリアルタイム記録に焦点を当てて -」（14.5%、14.1%）が高く、次いで「病院」では「入退院における重複する帳票記録類の一元化と多職種の連携」（12.3%）、「訪問看護ステーション」では「音声入力で時間を短縮 残業を減らそう」（20.7%）が高い。【表 4、図 4-2】

【図 4-1】「看護業務効率化先進事例アワード」受賞取組で実施してみたい取組（全体）

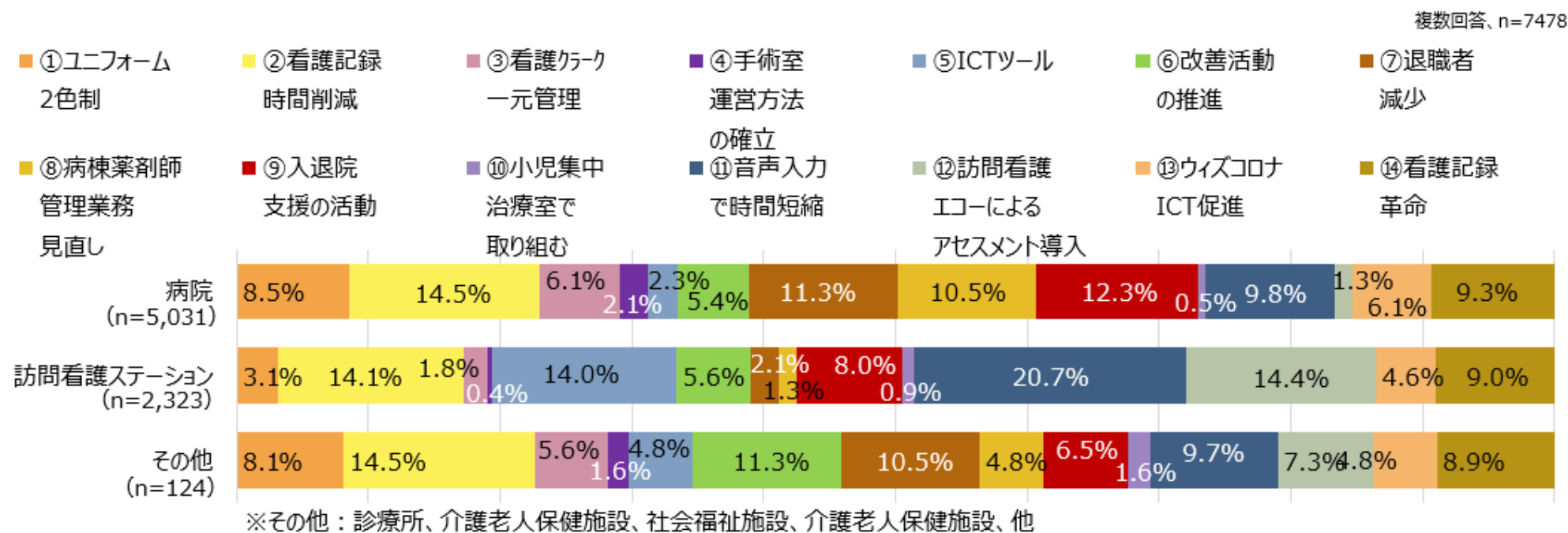


【表4】「看護業務効率化先進事例アワード」受賞取組で実施してみたい取組（所属施設別）

	回答数	① ユニフォーム2色制	② 看護記録時間削減	③ 看護クラーク一元管理	④ 手術室運営方法の確立	⑤ ICTツール	⑥ 改善活動の推進	⑦ 退職者減少	⑧ 見直し 病棟薬剤師管理業務	⑨ 入退院支援の活動	⑩ 取り組む 小児集中治療室で	⑪ 音声入力 で時間短縮	⑫ アセスメント導入 による	⑬ ICT促進 による	⑭ 看護記録革命
病院	5,031 (100.0)	427 (8.5)	731 (14.5)	307 (6.1)	106 (2.1)	114 (2.3)	271 (5.4)	566 (11.3)	530 (10.5)	621 (12.3)	26 (0.5)	494 (9.8)	65 (1.3)	305 (6.1)	468 (9.3)
訪問看護ステーション	2,323 (100.0)	72 (3.1)	327 (14.1)	42 (1.8)	10 (0.4)	325 (14.0)	131 (5.6)	48 (2.1)	31 (1.3)	186 (8.0)	22 (0.9)	481 (20.7)	334 (14.4)	106 (4.6)	208 (9.0)
その他	124 (100.0)	10 (8.1)	18 (14.5)	7 (5.6)	2 (1.6)	6 (4.8)	14 (11.3)	13 (10.5)	6 (4.8)	8 (6.5)	2 (1.6)	12 (9.7)	9 (7.3)	6 (4.8)	11 (8.9)
計	7,478 (100.0)	509 (6.8)	1,076 (14.4)	356 (4.8)	118 (1.6)	445 (6.0)	416 (5.6)	627 (8.4)	567 (7.6)	815 (10.9)	50 (0.7)	987 (13.2)	408 (5.5)	417 (5.6)	687 (9.2)

※その他：診療所、介護老人保健施設、社会福祉施設、介護老人保健施設、他

【図 4-2】「看護業務効率化先進事例アワード」受賞取組で実施してみたい取組（所属施設別）



<「看護業務の効率化先進事例アワード2019・2020・2021」最優秀賞および優秀賞事例>

業務改善部門	
1	<p>ユニフォーム2色制 「ユニフォーム2色制」と「ポリバレンタナース育成」による持続可能な残業削減への取組 一般社団法人熊本市医師会 熊本地域医療センター (2019年度 最優秀賞) ※「ユニフォーム2色制」導入による時間外勤務の削減と、ポリバレンタナース(様々な看護単位で活動できるオールラウンドプレイヤー)育成による支援体制の整備</p>
2	<p>看護記録時間削減 看護記録に要する時間削減の効率化への取組 - 記録内容の標準化とリアルタイム記録に焦点を当てて - 県立広島病院 (2019年度 優秀賞)</p>
3	<p>看護クラーケー一元管理 小規模病院における看護クラー科の立ち上げ・看護クラーの一元管理による看護師負担軽減 医療法人社団協友会 メディカルトピア草加病院 (2019年度 優秀賞)</p>
4	<p>手術室運営方法の確立 チーム医療による新たな手術室運営方法の確立～組織を巻き込んだ3カ年計画の取組を通して～ 広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院 (2020年度 最優秀賞) ※手術室における勤務体制の整備と、手術室看護師の人材育成</p>
5	<p>ICTツール ICTツール×ウェブ会議最大活用による業務効率化への取組 株式会社デザインケア みんなのかかりつけ訪問看護ステーション (2020年度 優秀賞)</p>
6	<p>改善活動の推進 改善活動の推進による働き続けられる職場環境作り ～広島自己採点ツール「チャレンジ」を活用した3か年に亘る業務改善の取組～ 医療法人和同会 広島シーサイド病院 (2021年度 優秀賞)</p>
7	<p>退職者減少 看護補助者の退職者減少を目指した「看護補助者の拡大チーム」の編成と「看護補助者ラダーの導入」 学校法人北里研究所 北里大学病院 (2021年度 優秀賞)</p>
タスク・シフト/シェア、多職種連携部門	
8	<p>病棟薬剤師管理業務見直し 病棟薬剤師との役割委譲協働による病棟薬剤管理業務の見直し 社会医療法人石川記念会 HITO 病院 (2019年度 優秀賞)</p>
9	<p>入退院支援の活動 入退院支援の活動からつなぐ看護へー外来でのスクリーニングを看護計画に直結させるー 公立羽咋病院 (2020年度 優秀賞) ※入退院における重複する帳票記録類の一元化と多職種の連携</p>
10	<p>小児集中治療室で取り組む 小児集中治療室で取り組む特定行為実践とタスクシフト～効率的で安全・安心な看護の提供を目指して～ 東京都立小児総合医療センター (2021年度 最優秀賞)</p>
AI・ICT等の技術の活用部門	
11	<p>音声入力で時間短縮 音声入力で時間を短縮 残業を減らそう 訪問看護リハビリステーション アオアクア (2021年度 優秀賞)</p>

12	訪問看護エコーによるアセスメント導入 訪問看護におけるエコーによるアセスメント導入と ICT を使った医師との連携 株式会社トラントユイット 訪問看護ステーションフレンズ (2020 年度 最優秀賞)
13	ウィズコロナ ICT 促進 ウィズコロナで ICT 促進！～患者と家族をつなぐオンライン面会の取組～ 社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院 (2020 年度 優秀賞)
14	看護記録革命 新型コロナウイルス感染症クラスター下での看護記録革命！～スマホ活用で問題解決～ 社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院 (2021 年度 優秀賞)

「看護業務効率化先進事例収集・周知事業の認知度等に関する調査 質問票

【目的・経緯】

超少子高齢化の進展により医療・看護ケアニーズが高まる一方、若年人口の減少により、今後大幅な看護職員の人材確保が困難となる中で、看護業務の効率化は喫緊の課題です。日本看護協会では、2019年から厚生労働省補助金事業「看護業務効率化先進事例収集・周知事業」を受託し、看護業務の効率化に資する事例を収集・選定・表彰する「看護業務の効率化先進事例アワード」や先進事例を自施設で試行する施設への支援を行う「看護業務の効率化試行支援事業」、ポータルサイトを通じた好事例の情報発信を行ってきました。

この度、さらに看護業務の効率化を推進し、看護職がより専門性を発揮できる働き方の推進や看護サービスの質の向上を図るため、看護管理代表者の皆様に、本事業に対する認知度や関心についてアンケート調査を実施することになりました。

設問は、看護業務の効率化への関心をお伺いする計4問です。所要時間は約5分です。お忙しいところ恐縮ではございますが、ぜひご回答くださいますようお願いいたします。

【問1】ご回答者の方について伺います。

【問1-1】所属施設の種別をお答えください。

1. 病院
2. 診療所
3. 介護老人保健施設
4. 訪問看護ステーション
5. 社会福祉施設
6. 介護老人福祉施設
7. その他

【問1-2】職位をお答えください。

1. 管理職（看護部長相当職、副院長相当職（看護部長兼任含む）、副看護部長相当職、訪問看護ステーション・福祉施設等の所長相当職等）
2. 中間管理職（看護師長相当職、副看護師長相当職、主任相当職）
3. スタッフ（非管理職）

【問1-3】所属施設のある都道府県名をお答えください。

【問2】厚生労働省補助金事業「令和4年度看護業務効率化先進事例収集・周知事業」（「看護業務の効率化先進事例アワード」や「看護業務の効率化試行支援事業」）をご存じですか。

1. 知っている
2. 名前は聞いたことがある
3. 知らない

【問3】貴施設が今後の業務効率化をすすめるにあたり、関心のある取組を、下記よりお答えください。

（複数回答可）

1. 記録の効率化（例：記録の標準化、音声入力などICTの活用）
2. 帳票類の整理（例：院内での帳票類の統一）
3. 業務の標準化（例：手順やマニュアルの見直し）
4. 勤務体制の整備（例：「繁忙度表」を活用した他部署への応援体制）
5. 多職種との連携、タスク・シフト/シェア
6. ICTを用いた情報の共有（例：記録やエコー画像の共有）
7. ロボットなどを用いた作業の効率化（例：物品運搬ロボット、移乗リフト）
8. その他（上記の1～7以外）
9. どれも関心がない

【問4】下表は、「看護業務の効率化先進事例アワード2019・2020・2021」最優秀賞および優秀賞を受賞した取組です（計14事例）。

【問4-1】1) まず「業務改善」の7事例のうち、「知っている」取組事例があれば、下記よりお答えください。（複数回答可）

事例番号	業務改善
1	「ユニフォーム2色制」と「ポリバレンタナース育成」による持続可能な残業削減への取組（一般社団法人熊本市医師会 熊本地域医療センター） ※「ユニフォーム2色制」導入による時間外勤務の削減と、ポリバレンタナース（様々な看護単位で活動できるオールラウンドプレイヤー）育成による支援体制の整備
2	看護記録に要する時間削減の効率化への取組 - 記録内容の標準化とリアルタイム記録に焦点を当てて - （県立広島病院）
3	小規模病院における看護クラーク科の立ち上げ・看護クラークの一元管理による看護師負担軽減（医療法人社団協友会 メディカルトピア草加病院）
4	チーム医療による新たな手術室運営方法の確立～組織を巻き込んだ3カ年計画の取組を通して～（広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院） ※手術室における勤務体制の整備と、手術室看護師の人材育成
5	ICT ツール×ウェブ会議最大活用による業務効率化への取組（株式会社デザインケア みんなのかかりつけ訪問看護ステーション）
6	改善活動の推進による働き続けられる職場環境作り ～広島自己採点ツール「チャレンジ」を活用した3か年に亘る業務改善の取組～（医療法人和同会 広島シーサイド病院）
7	看護補助者の退職者減少を目指した「看護補助者の拡大チーム」の編成と「看護補助者ラダーの導入」（学校法人北里研究所 北里大学病院）

【問4-1】2) 次に「タスク・シフト/シェア、他職種連携」の3事例のうち「知っている」取組事例があれば、下記よりお答えください。（複数回答可）

事例番号	タスク・シフト/シェア、多職種連携
8	病棟薬剤師との役割委譲協働による病棟薬剤管理業務の見直し（社会医療法人石川記念会 HITO 病院）
9	入退院支援の活動からつなぐ看護へ外来でのスクリーニングを看護計画に直結させる～（公立羽咋病院） ※入退院における重複する帳票記録類の一元化と多職種の連携
10	小児集中治療室で取り組む特定行為実践とタスクシフト ～効率的で安全・安心な看護の提供を目指して～（東京都立小児総合医療センター）

【問4-1】3) つづいて「AI/ICT等の技術の活用」の4事例のうち「知っている」取組事例があれば、下記よりお答えください。（複数回答可）

事例番号	AI/ICT等の技術の活用
11	音声入力で時間を短縮 残業を減らそう（訪問看護リハビリステーション アオアクア）
12	訪問看護におけるエコーによるアセスメント導入と ICT を使った医師との連携（株式会社トランスユイット 訪問看護ステーションフレンズ）
13	ウィズコロナで ICT 促進！～患者と家族をつなぐオンライン面会の取組～（社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院）
14	新型コロナウイルス感染症クラスター下での看護記録革命！～スマホ活用で問題解決～（社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院）

【問4】下表（再掲）は、「看護業務の効率化先進事例アワード2019・2020・2021」最優秀賞および優秀賞を受賞した取組です（計14事例）。

【問4-2】1) まず「業務改善」の7事例のうち、「貴施設で参考にして取り組みたい」ものがあれば、番号でお答えください。（複数回答可）

事例番号	業務改善
1	「ユニフォーム2色制」と「ポリバレンタナース育成」による持続可能な残業削減への取組 （一般社団法人熊本市医師会 熊本地域医療センター） ※「ユニフォーム2色制」導入による時間外勤務の削減と、ポリバレンタナース（様々な看護単位で活動できるオールラウンドプレイヤー）育成による支援体制の整備
2	看護記録に要する時間削減の効率化への取組 - 記録内容の標準化とリアルタイム記録に焦点を当てて - （県立広島病院）
3	小規模病院における看護クラーク科の立ち上げ・看護クラークの一元管理による看護師負担軽減（医療法人社団協友会 メディカルトピア草加病院）
4	チーム医療による新たな手術室運営方法の確立～組織を巻き込んだ3カ年計画の取組を通して～ （広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院） ※手術室における勤務体制の整備と、手術室看護師の人材育成
5	ICT ツール×ウェブ会議最大活用による業務効率化への取組（株式会社デザインケア みんなのかかりつけ訪問看護ステーション）
6	改善活動の推進による働き続けられる職場環境作り～広島自己採点ツール「チャレンジ」を活用した3か年に亘る業務改善の取組～（医療法人和同会 広島シーサイド病院）
7	看護補助者の退職者減少を目指した「看護補助者の拡大チーム」の編成と「看護補助者ラダーの導入」（学校法人北里研究所 北里大学病院）

【問4-2】2) 次に「タスク・シフト/シェア、他職種連携」の3事例のうち、「貴施設で参考にして取り組みたい」ものがあれば、番号でお答えください。（複数回答可）

事例番号	タスク・シフト/シェア、多職種連携
8	病棟薬剤師との役割委譲協働による病棟薬剤管理業務の見直し （社会医療法人石川記念会 HITO 病院）
9	入退院支援の活動からつなぐ看護へ外来でのスクリーニングを看護計画に直結させる～ （公立羽咋病院） ※入退院における重複する帳票記録類の一元化と多職種の連携
10	小児集中治療室で取り組む特定行為実践とタスクシフト ～効率的で安全・安心な看護の提供を目指して～（東京都立小児総合医療センター）

【問4-2】3) 最後に「AI/ICT等の技術の活用」の4事例のうち、「貴施設で参考にして取り組みたい」ものがあれば、番号でお答えください。（複数回答可）

事例番号	AI/ICT等の技術の活用
11	音声入力で時間を短縮 残業を減らそう（訪問看護リハビリステーション アオアクア）
12	訪問看護におけるエコーによるアセスメント導入と ICT を使った医師との連携 （株式会社トラントユイット 訪問看護ステーションフレンズ）
13	ウィズコロナで ICT 促進！～患者と家族をつなぐオンライン面会の取組～ （社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院）
14	新型コロナウィルス感染症クラスター下での看護記録革命！～スマホ活用で問題解決～ （社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院）